

しみずの教育

ちよっといひ話

清水小学校

【平成29年2月号】

校長 山下 勇

保護者の皆様の協力・支援に感謝しています

3学期、毎日、体育でスケートの授業を行っています。(1～5年生)今年も、清水小学校スケートリンク造成協議会が夜遅くまで作業をして造成していただき、先生方で維持管理しているスケートリンクを子どもたちはじめ、幼児や保護者、地域の方が利用しています。

低学年(1～3年生)のスケートの授業の時には、保護者の方が子どもたちのスケート靴のひも縛りを手伝いに来ています。おかげさまで、先生方の指導の時間と子どもたちのスケート練習の時間を確保することができます。また、保護者の応援・参観が子どもたちの励みになっています。寒い中、ご協力・ご支援をいただいている保護者の皆様に感謝いたします。



6年生が考えた給食メニュー

食育として取り組んでいる「大豆100粒運動」。その一環として6年生は家庭科の授業で、食材に大豆を使った給食メニューを考えて提案しました。その中から選ばれたメニュー「お豆たっぷりのナポリタン」「豆腐の美汁」「大学芋のきなこまぶし」の3品が、1月25日(水)の給食で清水町内の小・中学生に提供されました。メニューの特徴は、十勝や清水町の特産品である「豆」を使っていることです。全校児童や全教職員は、栄養バランス満点、ボリューム満点の給食を美味しくいただきました。



幼稚園児が「冬休みの作品展」を見学に見学

幼稚園年長児の子どもたちが、「冬休みの作品展」を見学に来ました。お兄さんやお姉さんの作品を見て、「小学生になったら、どんなものを作ろうか」と考えていました。

年長児の子どもたちは、色々な機会に学校に来るたび、小学校入学への期待感や夢が広がってきているようです。4月に入学してくる新1年生の姿が楽しみです。



この寒さの中で

校長 近藤 弘子

冬休みが終わり2週間。厳しい寒さの中、子どもたちは元気に登校し、学習やスポーツに励んでいます。

さて、開校100周年記念事業で頂いた「デジタル表示外気温計」がいつも正確な温度を私たちに知らせてくれます。ほっぺたを真っ赤にして登校して来た子どもたちが、それを見て「-17℃だ。寒いはずだ。」とか、遠くから今日の温度を友だち同士で予想して来て、「今日は当たった。」と一喜一憂したりとか、体感と実際の温度とを結びつけ生活を豊かにしていることを感じます。



それにしても1月は寒かったです。そんな寒い中、リンクの散水、除雪等、PTAの皆様にはとてもご尽力頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。そのリンクを子どもたちは寒さにも負けず伸び伸び滑り、自分の目標に向かって頑張っています。また、校庭には大きな雪山を作って頂きました。子どもたちは休み時間になると雪山から滑り降りたり、転がったり、雪まみれになって遊んでいます。

3学期は実質2ヶ月。雪と戯れているだけでは終わりません。学年のまとめと次学年への準備の時期です。わからないこと、できないことをそのままにして次の学年にいつてはいけません。今が頑張りどころです。子どもたちは少し辛いかも知れませんが、できるようになるためにコツコツ積み重ねて頑張らせています。家庭学習等で弱音を吐いている時もあるかもしれませんが。おうちの方も一緒に考えたり、頑張っている姿を大いに褒めたり、お手伝いをお願いします。

ところで、待望の日本人横綱が19年ぶりに誕生しましたね。横綱推薦の条件についての内規は「大関での2連続優勝を原則とする」とありますが、「これに準ずる好成績を挙げた力士を推薦する場合は、出席委員の3分の2以上の決議を必要とする」とも定められており、稀勢の里はこの内規にそって横綱に推薦されたとのこと。30歳と6か月。史上4番目の遅咲きの横綱だそうです。ある記事に「ぶれずに、愚直に、あきらめず、良いも悪いも含めて、ずっと何も変わらぬスタイルを貫き、ついに運をも味方に引き込んだのである。信長、秀吉からの天下が転げ落ちてくるのを、智・力・財を暖め、戦力を整えながら、じっと待った徳川家康のようである。30歳9か月で横綱に昇進し『おしん横綱』と呼ばれた師匠横綱、隆の里の出世道にも、どこか重なる。弱点も含めて、変わらぬことがときには強さに変わる。」これを読んだ時、あの優勝を決めた時の稀勢の里の涙の輝きを思い出し、更に今までの頑なりに深く感動しました。

外は-20℃でも心は熱く、稀勢の里の弛まぬ努力にファイトをもらい、101年の出発に向けて決意を新たにしました。3学期もご支援ご協力をよろしくお願い致します。

思わぬ国際交流

校長 宝 輪 博 継

町英語指導助手のマライア先生のお友達で、ミシガン州立大学に在学するデビッド・マクラウドさんという学生さんが、大学の休日を使い、マライア先生を頼って日本に遊びに来られました。

そのデビッドさんが日本の中学校の授業を見学したいということでしたので、日頃から「開かれた学校づくり」を標榜する本校としてはもちろん welcome！ 授業見学どころか、マライア先生と一緒に英語の授業に入っただき、交流をさせていただくことにしました。



4 時間目には 1 A の授業で、マライア先生が作ったデイビークイズ。英語で出題されるデビッドさんに関するクイズに、生徒たちは懸命に答えていました。

その後、デビッドさんの得意なギター演奏を聴かせていただいたり、デビッドさんが描いた絵は何か、英語で答えたり、楽しい授業が展開されました。



給食も、マライア先生と一緒に 1 A の教室で食べました。

マライア先生はかなり日本語が上手になりましたが、デビッドさんはほとんど日本語がわかりません。それでも生徒たちは、一生懸命接待し、楽しい時間を演出してくれたようです。

5 時間目には 1 B の授業、今度は生徒たちがデビッドさんに日本語を教えるという展開になりました。「トイレはどこですか？」など、今回の旅行でデビッドさんがすぐに使える日本語を教えてあげたそうです。いつもは英語の先生に言われる「Repeat after me」をデビッドさんに向かってうれしそうに繰り返したのだとか・・・。

マライア先生のおかげで、思わぬ国際交流ができました。

新入生保護者説明会

1月26日（木）、来年度本校に入学予定の御影小学校6年生児童24名とその保護者を対象とした入学説明会が行われました。

校長の歓迎の挨拶の後、教頭と担当教員から、学校の概要と諸届け、中学校での学習、中学校の決まりと心得、制服・ジャージ、部活動等について、児童・保護者に説明しました。

休憩の後、生徒会役員がVTRを使って生徒会活動を紹介しました。その後、保護者の皆様には教頭からPTA新役員選考について説明し、6年生は各学年の授業を参観しました。児童・保護者の皆様には、中学校の生活・学習・入学の準備などについてご理解いただけたものと思います。

6年生の皆さんは、担当教員の質問に元気よく答えていましたし、しっかり前を向いて話を聞いていました。とても立派な態度でした。中学校入学まで2か月余り。御影中学校の先輩や先生方が、6年生の皆さんの中学校入学を心待ちにしています。



全校スキー学習

1月25日（水）全校スキー学習を行いました。天候が心配されましたが、朝から快晴でした。場所は、芽室町嵐山スキー場です。朝のうちは厳しい寒さで-20度を下回る気温でしたが、お昼頃になってようやく暖かくなってきました。生徒たちは、初級から上級までいくつかのグループに分かれ、それぞれ担当の先生方の指導を受けながらスキーを楽しみました。初めてスキーを体験した生徒もいましたが、結構最初から上手に滑っていました。



課題研究発表会 ～ 総合学科の特徴

1月24日（火）、午後の2時間を使って総合的な学習の時間「課題研究発表会」を行いました。総合学科では「産業社会と人間」という科目で進路意識の醸成や仕事・社会の研究

を行います。総合学科ではない高校にも置かれている「総合的な学習の時間」も含め、高校三年間で系統的なキャリア教育を実施し、将来を考えます。

本校では1年次の「産業社会と人間」で系列を選ぶための職業に対する基礎知識を学び、調べ学習を行い、2、3年次の「総合的な学習の時間」につなげていきます。3年次では大学の卒業論文と同じように自分でテーマを決め、調べ学習に取り組みます。内容の良いものを選び、2、3年次生全員の前で発表するのが「課題研究発表会」です。

今月は、8発表の内容を紹介します。

A組の安井さんは2年次のインターンシップ経験から、給食のメニューを調べました。北海道では地場の野菜を使い工夫された給食が多いのですが、全国的にはパン給食中心に、味の濃いおかず、おやつ的なメニューなど不思議な内容の給食がある事例から食育について考えました。視点が面白く、さらに発展研究できる内容でした。B組の村瀬くんは演劇部の部長でした。人を引きつける話をしたいと考え、様々な角度から「話し方」の分析がありました。

自己の将来を考えての発表が多いのですが、進学する4人は進学先に関しての研究を深化させました。B組の一橋さんは進学する北海道教育大学について札幌、旭川、釧路、岩見沢、函館の5校の特色、履修内容、卒業生がどうなっていくかを調べ、自己の高校生活を振り返り受検するに至った経験を発表しました。C組の及川くんは情報系の学校に進学しますので、アイドル文化やネットの現状をアンケートも実施して考



察しました。D組の竹内さんは放送音響関係の専門学校でこれから学ぶPA（音響）の仕事の可能性を発表しました。C組の野久さんは旅行業界への就職を目指し進学します。人気グループ「嵐」が観光に及ぼす影響を「観光立国ナビゲータ」就任、ファンの「聖地」、コンサートの経済効果等からきめ細かく考察しました。野久さんは2月7日（火）、石狩翔陽高校で行われた全道の「総合学科学習成果発表会」に参加し、堂々と発表を行って来ています。

就職する2人も、自己の仕事に向かう姿勢を深めるために調べ考え発表しました。

B組の芽村さんは接客の仕事、明るい印象を与える3要素、「表情」「声」「話の内容」、加えて「接客ベからず集」等を考えまとめ、会場の生徒が興味深くうなづく内容でした。B組の上西さんは大きな組織での仕事を意識してドラッカーの本を読み込み、「成果を上げる」「強みを生かす」等々の内容を紹介、就職に臨む準備は万全ですね。

将来の目標に向かって、それぞれが自己の調べた内容をまとめ、はきはきと発表する「課題研究発表会」、総合学科ならではかと思えます。自信溢れる生徒の姿を紹介しました。

3月1日（水）、138名の総合学科18期生が卒業します。

おもちゃをもらって…清水高校 生産技術系列！

1月20日（金）清水高等学校 生産技術系列の3年生 15名（男子）と2名の先生方が来園され、たくさんの木のおもちゃを持参してくれました。生徒の力作揃いの木のおもちゃに園児たちの目がきらきらし始め、どれで遊ぼうかと目が釘付けになりました。お兄さんたちに遊び方を教えてもらいながら、いろいろなおもちゃやゲームに挑戦して大喜びでした。

その後、キャタピラリレーで一緒に楽しみました。最後に、一年間お世話になった高校生や先生と一緒に写真を撮りました。お兄さんたちは、春からは、いろいろな道の一年生。園児は小学一年生です。お互いに頑張ってくださいとエールを送りました。



アイスアリーナに行ってきました

1月26日（木）に、年長・年中で御影のアイスアリーナに行ってきました。年中の中には、アイスホッケークラブに入っていてなじみの子もいますが、ほとんどの子が初めてです。エルボーやヘルメットなどを身に付けるのに、どのようにするのかがわからず一生懸命に、先生の話を聞いてがんばっていました。長靴でのアイスホッケーやそり遊びを楽しんだ後で、宝探し（おせんべい）を一齐に行い、氷の上で足をとられながら、楽しい時間を過ごすことができました。寒いはずのリンクで、とても暖かくなりました。

そりすべり満喫…グラウンドに雪の山！！

幼稚園の外遊びに合わせ、町にお願いして作っていただいた大きな雪山を利用し、そり遊びや、ビニールを使っでの大人数による滑り降りに挑戦しています。

近くでは年長児が、かまくら作りに汗をかきながら挑んでいます。園児が入れるような大きな雪山になるまでにはまだまだ時間がかかりそうです。

降園時にも、そりすべりや雪の中での鬼ごっこなど冬ならではの遊び方で、グラウンドには子供たちのにぎやかな声が響いています。



次期学習指導要領全面実施に向けて

子どもたちが全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするために、文部科学省では学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（学校の教育計画・学びの地図）をつくる際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といい、小学校や中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容をまとめています。幼稚園にも「幼稚園教育要領」、保育所は「保育所保育指針」というものがあります。

学習指導要領は、今までほぼ10年ごとに改訂されてきています。その中で、平成元年の改訂では、1・2年生の理科と社会科がなくなり、「生活科」が新設されました。平成10年には、「総合的な学習の時間」が新設されました。平成20年には、小学校5・6年生に「外国語活動」が新設されました。平成27年の一部改正により、「道徳」が「特別な教科 道徳」（道徳科）と教科になります。小学校は平成30年度、中学校が平成31年度からの実施となります。

次期学習指導要領は、小学校は移行措置や先行実施を経て、平成32年度（2020年）から全面実施の予定となっています。（幼稚園は平成30年度、中学校は平成33年度、高等学校は平成34年度）その中で、小学校では5・6年生の「外国語活動」が教科となり、週あたり1単位時間増えることとなります。（年間70単位時間）3・4年生には新たに「外国語活動」が導入されます。（年間35単位時間）したがって、3年生以上は今より週1単位時間増えることとなります。（1単位時間は小学校では45分、中学校では50分をいいます）教科の再編は長らくありませんでしたが、平成元年の改訂から随分と行われるようになりました。

各学校は次期学習指導要領の全面実施に向け、移行措置を踏まえ、新教育課程の編成作業に入っていくこととなります。

近年、知識・情報・技術をめぐる変化や人工知能（AI）の急速な進歩があります。伴って、教育も大きく変わろうとしています。教育委員会としても条件整備に向けての取組も必要となります。ICT（情報通信技術）環境の整備では、中学校にもタブレット（画面を直接さわって操作する、携帯できる情報端末）の導入が予定されています。

（教育指導幹 清水彦一）



家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、行ってらっしゃい

笑顔で声掛け

地域は、子どもの安全

見守ろう